

志々島聞き取り調査

秋吉一郎、井内善臣、植野和文、木村良夫、松浦昭、前川昌子

2005年8月と9月の2回島に渡り、歴史と現況について聞き取り調査を行った。

第1回聞き取り調査

日時 2005年8月29日

場所 志々島老人憩いの家

聞き手 木村良夫、松浦昭、前川昌子、元山裕雄（栗島自治会長）

憩いの家の入り口に詫間町の支所があり、町の職員 M さんが勤務している。毎日午前9時から午後3時30分までいて、船で詫間に帰るといふ。まず、職員の人から島の現況を尋ねる。次いで自治会長さんをお呼びいただき話を聞く。

島の現況

3部落（本村、宮之浦、横尾）に32人が住んでいる（夫婦は6組くらい、他は独居）。ケアハウスに3人が入っている。うち1人は住民票を島に残している。伊勢屋（雑貨屋）のおばあちゃんもすこし前にケアハウスに入った。

診療所があり、週1回月曜日に、町営病院から医師と看護婦がきて診察する。水曜日と金曜日には看護婦さんだけが来る。

人が住まなくなった家がたくさんある。（島で焼却できず、解体・処分に多額の金がかかるので放置されているのであろう。）

北野芳市さんから聞いた話

北野さんは志々島の自治会長さん。83歳であるが、元気そうである。もと漁師らしく肌が黒く、無駄な肉がない。

同席 Nさん かなり若い。70歳くらいか。

漁業 志々島は昔から広い漁場を持っていた。昔はさわら、えびなどがよく取れた。魚は最近とれなくなっている。あさり、わかめもよく取れたが今はだめ。

農業 各戸に井戸がある。米は作っていなかった。いも、とうがらし、除虫菊（戦後しばらく盛ん）を栽培していたが、その後、花（菊、マーガレット）を栽培するようになった。

道路 車が通れる道路がない。道路整備の機会があったが、各戸の土地が減歩で減らされるので合意できなかった。そのため島には車がなく、運搬が大変である。農協にプロパンの配達を依頼するとき配達料500円を払っている。

運動会 今島で一番若い人が63歳(男性)で最年長者が93歳(女性)である。町の補助もあるので、秋には運動会をしている。港の前の道路を会場にしてパン食い競争などをしている。

住宅 空き家を買いくる者がいるが、先祖代々受け継いできたものを10万や20万で売れない。(坪2千円で50坪だと10万円である。)

家は空き家にしておくとすぐに住めなくなる。久しぶりに帰島して家に泊まろうとした人が無理だといって帰っていったのを見ることがある。

北野さんの個人史

大正11年志々島生まれ、83歳。

5人きょうだいの長男。小学校に行った頃、150人くらいの子供がいた。学校から帰るといも運びなどの手伝いをさせられた。

半農半漁で生計を立てて来た。父が高齢になり船に乗れなくなったので、45,6歳で漁師をやめる(1967,8年のこと)。以後、しばらく島で土木作業の仕事をする。

島の女性と結婚し、子供を3人もうける。子供たちは島から出た。今、大阪に1人、丸亀に2人いる。

連れ合いは10年前に癌のため香川医大の病院で亡くなった。丸亀で葬式をした。

近況 丸亀の息子の所に行く、仕事もなくテレビを見ることになる。ここにいると、畑の野菜づくりもあり、話し相手もいるので暮らしよい。週一回連絡船で詫間に買い物に行く。宮の下港でおりて、手押し車を押して荷物を入れてくる。散髪もそのときにする。

2005年9月12日

志々島支所に電話で問い合わせる。Mさんが答えてくれる。

栗島経由で水道が来ている。

下水・トイレ 個々の家で処理している。簡易の水洗にしている場合もあれば、畑に肥料として入れる場合もある。かなり負担であるとの声がある。

郵便 委託された人(元島民)が船で来て各戸に配達している。

銀行はないが、農協の支所でお金の出し入れ・送金ができる。また、支所が簡易郵便局を委託されているので、そちらでも可能。

燃料 一部オール電化もあるが、大部分はプロパンガス。すこし小型の8kg(通常10kg)のものを農協で斡旋している。配達も500円でしてもらえる。

ごみ 町が船でごみを回収しにくる。船着場の近くまで出せばいい。粗大ごみは年2回くらい回収がある。

大楠への道の掃除 詫間町公民館がボランティアを組織して11月に草刈をする。

寺の掃除 地元でしている。

子供訪問 詫間町の小学生が訪問してくることがある。随時。

選挙 老人憩いの家を投票所にして他地域と同じ時間投票する。町から職員も来るが、立会は島民がする。夜8時に投票終了後投票用紙を船で本土に運ぶ。

交通 連絡船：宮之下一志々島―栗島を結ぶ連絡船が1日3往復している。他に自家船を利用する者もある。海上タクシーはないが、緊急の場合には代わりに運行してくれる漁船がある。

第2回聞き取り調査

日時 2005年9月22日

木村良夫、秋吉一郎、井内善臣、植野和文の4人で、午後3時間あまり現地に行き、住民から聞き取りをする。後日、町の志々島支所のMさんから補足の説明をもらう。

農協支所 詫間から女の職員さんが通っている(8時30分宮の下発の便を利用)。9時から3時30分まで開けている。簡易郵便局を兼任でしている。肥料の販売もしている。

漁協(今は栗島漁協と合併している) 島の男の人が職員でいる。島を出ると正組合員から準組合員となる。高見島に貸している養殖いだから入るお金は漁協の運営費にしている。

港にとまっている漁船で網を片付けていた漁師さんに聞くと、一時より海はきれいになったが魚は減ったとのことであった。

小・中学校の跡地に四国の企業(きんせん)の研修所が建っている。夏に保養で利用されている。日ごろはあまり使われていないという。映画のロケの時には宿泊に利用された。

雑貨屋 飲料、酒類、菓子などを販売。パジャマもおいてある。日持ちのしない食料品はおいていない。80歳以上の高齢者夫婦がやっている。店の前に長いすがおいてあり、住民が集まって雑談する場所になっている。個人商店は今はこの1軒のみ。

雑貨屋のおばあちゃんに聞いた話：

「庄内半島に子供が住んでいる。週に1回来る。そのときにうどんなどを持ってくる。

9月の八幡神社の祭りには、島外からも人が来てかぐらの舞があり、にぎやかだった。

月に1回、老人憩いの家ですしを作る。島外から社協関係のボランティアさん2人来て、島内からも3人出てすしを作り、ほとんど全員が集まって食べる。」

畑仕事の終えた老婆は2人坂道に腰掛けて話していた。野菜のほか小菊、キンセンカをつくっている。道端に袋に入った化学肥料がある。

港に漁から帰った漁船が2隻泊まっていた。漁師が網を片付けていた。一人はひどく腰が曲がっていたが、起用に船の上を移動していた。

船着場の近くに公衆(町営)トイレがある。紙などは町が負担しているという。夕方島の婦人がひとりで掃除していた。

診療所 集1回町の病院から医師が来るとき、診察してもらう人が多すぎても困るので調整をしている。古い診療所の看板が船着場の近くに残っていた。

工事中 昨年の台風で壊された消防屯所を再建していた。

当日は9月22日で、彼岸であったため、元島民の人が数人花を持って墓参りに来ていた。

自治会長の北野さんに再会。今、人が住んでいる集落を尋ねると、「人が住んでいるのは本村、宮ノ浦、横尾の3集落だけで、特に横尾は2軒しか住んでいない。」という。

後日、支所の森さんに電話で聞くと「八幡神社の祭りは毎年しているわけではなく、久々のことである。つい先日あり、神主さん・巫女さんも来た。また、すしを食べる会は補助とひとり400円の会費でやっている。掃除は神社、町営トイレなどを住民で分担して掃除している。」とのことであった。

町役場で聞いたこと

連絡船の赤字は、離島振興法により、国 1/2、県 1/4、町 1/4 の割合で補填している。

新型の連絡船が入れるように、志々島の港の浚渫をしている。

駐在所はない。粟島のおまわりさんが兼任で巡回する。